

# 春日山駅 Kasugayama

## 戦国の名将 上杉謙信公の心が息づく



- トイレ
- エレベーター
- 車いす
- 窓口
- 自動券売機
- コインロッカー
- 売店
- 自動販売機
- 公衆電話
- 駐車場 (市営・無料)
- 駐輪場 (市営・無料)

### 謙信公の義の心があちこちに感じられる

春日山駅は、高田地区（旧高田市）と直江津地区（旧直江津市）のほぼ中間点に位置する駅です。上越市役所木田庁舎の最寄り駅で、西側には上杉謙信公の居城であった春日山城跡がある春日山がそびえています。周辺には謙信公ゆかりの史跡が残り、謙信公の義の心が今も息づいています。

### 周辺のおすすめスポット



毘沙門堂

#### 春日山城跡 (謙信公銅像まで駅からタクシーで10分)

南北朝時代には既に存在していたようで、広大な城に整備されたのは謙信公の時代です。複雑な自然の地形を巧みに利用した堅固な城塞は、今も山城の特徴が残り、難攻不落の天下の名城といわれました。山の裾野に、延長1.2kmにも及ぶ堀と土塁で総構が築かれている点が大きな特徴です。



#### 林泉寺

(駅からバス・タクシーで10分)

長尾家の菩提寺で、上杉謙信公が7歳から元服して景虎と称するまで六世住職・天室光育から学問を学びました。景虎がのちに上杉氏を継承し、上杉輝虎を称すると、林泉寺は上杉氏の菩提寺となります。趣のある建屋、静かな時が流れます。



#### 春日神社 (駅からバス・タクシーで10分)

現在の春日山の山頂に約500年、現在地に遷座してから600年の歴史があります。春日大社の記録では全国の春日神社の中で最初に出てくる神社で、春日山城全体の総鎮守として謙信公の時代から大切にされてきました。



#### 春日山神社 (駅からバス・タクシーで10分)

謙信公を祭神に祀った神社です。明治34（1901）年に、童話作家・小川未明の父・小川澄晴によって創建されました。神明造の社殿で、謙信公の遺品・資料などが展示されています。



#### 春日山城跡ものがたり館 (駅からバス・タクシーで5分)

上杉謙信公や、当時の春日山城跡の様子などを大型画面のビデオで紹介しているほか、川中島合戦図屏風などを展示しています。


上越市大字大豆334 TEL025-544-3728




#### 埋蔵文化財センター (駅からバス・タクシーで5分)

春日山城跡のふもとにあり上越市内の埋蔵文化財を研究・保管・公開する施設です。市内の歴史に関する展示のほか、出土品の整理や復元作業を見ることができます。

上越市春日山町1-2-8 TEL025-521-6280




## 戦国の名将 上杉謙信公



上杉謙信公は長尾為景の末子として誕生。春日山城下の林泉寺に入り7～14歳までを過ごしました。深い学識、厚い仏心はこの時代に培われたといわれています。その後天文12年に元服し長尾景虎と名乗り、武田晴信（信玄）や北条氏康、織田信長といった戦国時代の名将と戦をしていますが、その戦いは欲ではなく、義を重んじ出兵したものだといわれています。武田晴信に領地を奪われた村上義清・高梨政頼らを助けるために出陣した「川中島の合戦」は、特に有名です。合戦で武田晴信が今川氏真によって塩を断られた際には、武田に塩を送ったエピソードも伝えられています。謙信公の旗印「毘」の文字は、自らを毘沙門天の生まれ変わり信じ、厚く信仰していたことに由来するといわれています。

「懸り乱れ龍の旗」から、越後の龍とも呼ばれ、内政や外交にも才を発揮し、青苧（衣類の原料となる植物）を栽培し、全国へ広め、それを財源にしたといわれています。天正6（1578）年、享年49歳で生涯を閉じますが、生涯妻を持たず未婚を貫くなど、戦国武将としては異色の人物であったと言えます。



謙信公祭 (8月中～下旬に実施)